

九条の会

秋葉区「九条の会」事務局
 新津教育会館内
 新潟市秋葉区善道町2-9-44
 Tel 0250-21-3691 Fax 0250-21-3692
<http://9jo.iinaa.net/>

井上ひさしさんのご逝去を 心よりお悼みいたします

4月9日、九条の会のよびかけ人のお一人であった井上ひさしさんが、肺癌のため逝去されました。私たちは小田実さん、加藤周一さんについて結成以来、会の活動の先頭に立って奮闘してきた大切なよびかけ人を失いました。まことに残念です。

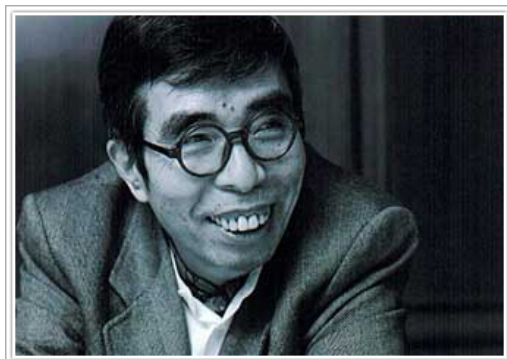
私たちはこの哀しみを力に変え、井上さんが大事にしてきた「九条の会」の運動をよりいっそう発展させるよう奮闘するつもりです。井上ひさしさんに心から感謝したいと思います。

以下、九条の会ニュース掲載の記事です。

よびかけ人の一人で劇作家の井上ひさしさんが9日、肺がんのため死去されました。

井上さんは、幅広い文筆活動をつうじて社会性の強いアピールを発信しつづけてこられました。2004年の「九条の会」発足にあたっては、よびかけ人の1人として参加され、各地での講演会等にも率先して出かけられました。一昨年6月には、「九条の会」が岐阜市で開いた憲法セミナーの講師をされ、昨年11月にも福井市の憲法セミナーに参加を予定されていましたが、10月末頃に体調を崩され、検査の結果、肺がんと判明。やむなく福井市の憲法セミナーの講師は他のよびかけ人の方と交代され、以後療養につとめてこられました。ついに再起はなりませんでした。

(九条の会ニュース135号)



小学校区単位に「会」づくり追及を

「九条の会」が記者会見

「九条の会」事務局は4月22日、国会内で記者会見し、「九条の会」が予定している講演会の企画や草の根に広がる地域・職場・学園の「会」の結成状況を発表しました。

小森事務局長は会見の冒頭、4月9日に亡くなったよびかけ人の一人井上ひさしさんは、「言葉の力で戦争を押し返す運動」に大きく貢献されたことを紹介し、予定していた6月19日の講演会は井上さんの志を受け継ぐ場と成功したいと語りました。また、普天間問題や改憲手続法の施行など憲法をめぐる動きについて、「九条の会」として草の根の運動の自主性を尊重しつつ、それぞれの運動の発展に協力していきたいと述べ、そのためにも近隣の「会」が助け合って小学校区単位の「会」づくりを意識的にすすめる必要があるとの考えを示しました。

『秋葉区 九条の会』を もうひと回り 大きくしてください！

「秋葉区九条の会」は、今年の12月で5周年を迎えます。発会したときは180人でしたが、現在の会員は282人で、この4年半で約100人の会員が着実に増加しました。しかし、憲法9条の「改正」を阻止するためには、もっともっと多くの人々の力が必要です。「入会申込み用紙」を同封しますので、「秋葉区九条の会」をもうひと回り大きくすることに、ご協力お願いします。

私たちは、政治的な立場や信条などは様々ですが、「憲法9条だけは、どうしても守らなければならない」という一点で集まりました。「戦争はもうこりごりだ」「改憲は許せない」こんな思いをいだている人たちに心から呼びかけます。「世界の宝・憲法9条」を守り、活かすために力を合わせましょう！

秋葉区九条の会 事務局

長谷川 正熙（金沢町）

「正ひろ、早く起きな」何度も母にゆすられて起きたようだ。「敵の飛行機がきた」という声で縁側に出て空をみた。暗い空であったが、飛行機が見えるくらいの明るさだったので、朝方だったと思われる。

探照灯が四方から飛行機を追っている最中であつた。四本のサーチライトが飛行機を追い、光の交差した中に飛行機が入ったと思うと高射砲の音がした。すると飛行機は黒い煙を出し始め、旋回しながら炎を出して落ちてきた。65年を経た今でもこのことは鮮明に思い出される。

当時空襲に備えてまくら元には住所、名前を書き込んだ防空頭巾（頭を守る綿の入った布）と非常食を入れたリュックをおいていた。一番良い服を着せられて寝ていたので、体はアセモだらけだったと後から親から聞かされた。小学校（国民学校）では両手の親指で左右の耳をふさぎ、残りの指で目を覆い先生の合図で机の下に潜る練習をしていた。家では窓ガラスには紙をベタベタ貼り、町内の役員が「空襲警報発令」とメガホンで叫んでくると、電灯の光が外に漏れないように電灯につけた風呂敷を下におろして灯火管制に備えた。「〇〇さんも戦地に行き、帰ってこない」という大人の話聞くようになった。私の父親も徴用（国が国民に一定の仕事に課す）中の事故で命を落とした。私が小学一年の時、名古屋でのことである。伯父も伯母もやはり名古屋で爆死である。

私が小二の時、八月十五日焼けつくような暑い日であった。十二時、ピーピー雑音のするラジオの前で、大人たちが正座して聞いている様子は、子どもながらただならぬ雰囲気を感じ取っていた。玉音放送で子どもの私にはあまり良くわからなかった。後で親に聞いて戦争が終わったと言うことを知らされた。

戦後の私には一年中腹が減ったことしか思い出せない。白いご飯を腹いっぱい食べたい気持ちで子ども時代を過ごした。学校では脱脂粉乳が出た。嫌いな友達のをもらって、何杯も飲んだことなど食べ物について書けばきりが無い。

この戦争で多くの人を亡くし、毎日おびえながら暗い生活を送り、毎日ひどい思いをしながら過ごしたのが私の小学校時代である。アジア二千万人、国内三

百万人といわれる尊い命が失われた。大切な文化遺産も多数破壊された。その大きな犠牲を払って生まれたのが憲法9条である。どんなことがあっても次の世代のため、暗い時代に引き戻さないためにも守り続けなければならないと思う。

古今不滅の9条愛 小倉 修作（松ヶ丘）

議会研修で原爆投下の被爆地（広島2回と長崎1回）へ脚を運んだことがある。その折々に廃墟原形で残された平和ドームを拝し、生々しい爪痕を眼中に、戦争の悲惨さと核兵器使用の恐ろしさを見せつけられ、世界平和の切なる希求を痛感させられました。

私は、旧国民学校3年時に終戦を迎え、とうに古希も過ぎ、戦争体験の記憶も薄れつつある中に、二度と繰り返してはならない戦争の悲惨さを、機会があったなら、次世代を担う若者たちに語って上げたい気持ちです。

戦後、はや65年余の歳月が流れ、わが国も幾多な困難や障害を乗り越え「世界の中の日本」を魅了させるようになったのも、やはり国民ひとり一人が、民主主義精神に徹し、平和な日本構築への固い決意があったからだと思っています。

今日、国際社会において、日本がある場面で地位を高め、胸を張って誇れるのも、民主主義を礎にした「日本国憲法」の制定、とりわけ憲法九条あつての認識と記憶しています。同時に戦争を阻止し、国際平和を誠実に希求するためにも、安易に9条を改正、拡大解釈をも許してはならない事だと思っています。

戦争のために、叔父も従兄弟も、お隣の兄ちゃんも、みんな戦死してしまった。どこで、どう葬られたのか遺骨も遺品もなかったそうです。しかし、合同供養のために、戦没者の「御霊を祀る忠魂碑」が、故郷の地にあり、遺族が一同に会して英霊祭を行なっていたが、今では訪れる人も、語る人もいなくなつたと聞いており、人間として寂しさを感じています。私は、まだ「真の平和」のとはの解釈に戸惑いながら、本紙を通じ「御霊のご冥福を」祈りながら、愚筆といたします。 合掌

短歌

「松代壕と無言館」

佐藤 盛男（北上）

何時の世も
過酷労働は罪なりき

松代壕の
軍の非道さも

過労にて
あまた死にし松代壕

戦時の不合理
問ひてやまず

家族をば
描き残せし画学生

其の絵を守る
哀し母はも

無言館
裸婦の絵多く若き等の

想はば哀し
想はば哀し

明日は無き
今日の別れを惜しみつつ

妹を描きて
画学生逝く

戦争を
望む者なしこの国は

不戦を誓ふ
九条を守ろう

九条を守ろう